

# 千秋(せんしゅう)

登録番号：第42号

育成者：鈴木 宏 丹野貞男 田口

登録年月日：昭和55年3月31日

辰雄 丹波 仁 今喜代治

登録者：秋田県(秋田市山王4-1-1)

来歴：「東光」と「ふじ」の交雑実生

## 特 性

### ■栽培特性

樹姿は親品種の「東光」、「ふじ」に似て、枝は開帳性で比較的角度の広い枝が発出する。樹の大きさおよび樹勢は中程度で、えき花芽の着生は中～多めで、親品種より多い。花芽の着生は比較的早く、長果枝も着生しやすい。花芽の形は円錐から卵形で、花卉の色は風船状では濃桃色、満開時には淡桃色に咲く品種の中ではやや濃い色を呈する。

初期生育は発芽から落花期まで「ふじ」より2日程度遅く、栽培品種中、遅いグループに属する。花粉の粘性は高く主要経済品種との交配親和性は高い。

### ■果実特性

果形はおおむね円形であるが、やや長円形を示すものも見られる。果皮の色は緑黄の地色の上に縞入りの褐紅色を呈し、色の濃さは中位で「ふじ」より明るい。「ふじ」、「つがる」に比べて着色量は多いが、こうあ部の果梗周辺に着色しない緑色の部分が残る。

肉質は緻密で、硬さは中位、果肉の褐色化は弱い方に属する。蜜入り果はほとんど認められず、甘味は中位で屈折計示度で13～14%、リンゴ酸含量は0.5%前後、食味は果汁が多く適度の酸味があり、歯ざわり良く、さわやかな味で品質は優れている。

果実の重さは外観の大きさに対比してやや重く、密度は高い品種群に属する。

収穫期は、秋田県で9月下旬から10月上旬で、「つがる」の約1週間後から収穫期に入る。貯蔵性は9月下旬収穫のりんごとしては日持ち性が良く、常温で約1ヶ月、冷蔵だと年内まで可能である。

### ■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

うどんこ病抵抗性を有し、斑点落葉病には普通の防除剤散布条件下で葉の病斑はほとんど見られていない。

本品種は次のような点に留意する必要がある。

収穫適期の把握：食味、日持ち性を高めるため、適期収穫を実施する。収穫適期は満開後140～150日である。着色にこだわり、収穫期が遅れると果面にワックスが上がりやすく商品性が低下する。

中玉生産：やや小玉傾向の果実が多く、果形不良、果面障害がしやすい傾向がみられるが、大玉を目的とする多肥栽培は着色、食味、貯蔵力の低下および裂果に結び付く。良品生産には充実した花芽の着生と早期摘果、適正着果量に心がける。

裂果や果面障害対策としては、中心果の利用と、強剪定を避け、多肥を控えて樹勢を落ち着ける。結果枝・側枝は骨組みの枝から下向枝を保ち日当りを良好にする。どうしても裂果等の発生が軽減できない時は有袋栽培が有効である。遮光度の高い袋は食味低下をもたらすので使用しない。

### ■地域適応性

土壌その他に対する適応性は比較的広いと思われるが、有効土層の深い所に適する。

平成2年度の栽培面積は2,305haで、全国りんご栽培面積のおよそ4.3%である。

(丹波 仁)